

第3回 佐世保市 前畑弾薬庫跡地利用構想検討有識者会議 議事録	
日時	平成29年1月26日（木） 14時00分～15時50分
会場	佐世保市総合教育センター2階 中研修室
公開・非公開	公開
出席者	古賀委員、湯川委員、片岡委員、飯田委員、辻委員、山本委員、原委員、指山委員、松永委員、崎田委員、田雑委員、中村委員、西川委員、井手委員、森岡委員、朝永委員、中野委員、山口委員、飯田委員、藤木委員、久田委員（代理出席；市坪氏）
会次第	1. 開会 2. 委員紹介（委員交代による紹介） 3. 議事 1) 前畑弾薬庫の跡地利用の検討について 2) その他（事務連絡） 4. 閉会
主な意見等	【跡地利用構想検討に係る目標年次の考え方について】 （「移転時期が見えない」中での跡地利用の検討についての意見） ・私たちの世代から次の世代へのメッセージと考えてはどうか。 ・跡地利用の検討が移転・返還の促進に資すると考えてはどうか。 ・一定将来を見据えて今後の方向性を示すことは良いことと思われる。 ・今後の社会情勢を踏まえて跡地利用の検討を進めることは重要。 【跡地が担うべき役割について】 ・昨今の防災・減災の観点から防災機能を追加して検討してほしい。 【今後の検討の視点について】 ○事業主体について ・運営主体の考え方について一定整理することが必要。 ○財源の考え方について ・実現性の観点（運営主体と関連）で一定整理することが必要。 ○国の施策等について ・実効性を考慮し、国の施策・動きも参考にした検討も望まれる。 ○周辺との連携について ・周辺地域の用途地域を考慮して跡地利用の検討を行うことが重要。 ・近隣の準工業地区との関係も考慮して検討することが必要。 ○動線（アクセス）について ・どこに道路を通せば土地が有効に利用できるのかの検討が望まれる。 ○弾薬庫の持つ特性を活かしたまちづくりの検討について ・非代替性（佐世保港に面した貴重なエリア、希少価値の建物等）、立地条件といった点を踏まえ跡地利用の検討をすすめていくことが重要。
結果（要旨）	跡地利用検討に係る基本的な検討の方向性（「役割」と「活用策」の素案）について、承認を得た。

■平成 28 年度 第 3 回「前畑弾薬庫跡地利用構想検討有識者会議」議事要旨

【日時】 平成 29 年 1 月 26 日（木） 14：00～15：50

【場所】 佐世保市総合教育センター2 階 中研修室

【次第】 別紙参照

【内容】 下記のとおり ※次第 1、2 を除く

3. 議事

1) 前畑弾薬庫の跡地利用の検討について

事務局：（資料説明）

座 長：今、事務局から本日の資料についてご説明頂きましたが、説明が分かりにくかったところや、追加で説明して欲しい部分はありますか。議論に入る前に、質問をお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

A 委員：私は、南地区自治協議会の代表としてこの会議に入っています。自治協議会については、市の第 6 次総合計画において「平成 24 から 29 年度までに中学校を単位とする 27 地区において自治協議会をつくる」ということが示され、地域コミュニティ推進事業として進められています。現在、16 地域が自治協議会としての活動を進めており、残りの 11 地区は、今年つくることになるでしょう。さて、今回の対象地区である前畑という地区は、私が所属する南地区に該当します。南地区は、佐世保駅から約 1km 離れたところで前畑町・干尽町などからなり、中学校は福石中学校と崎辺中学校、山澄中学校の一部が入っています。組織は 24 町内住民、小・中学校、PTA、商店街などいろいろな団体で構成しています。今回の構想検討に際し地域の意見を出そう、ということで、早速各代表者に独自のアンケートを実施し、「前畑弾薬庫跡地が担うべき役割と活用策」について意見を求めました。しかし、対象地区は、明治 18 年から約 100 年、一般の人が入ったことがないので、ここをどうしていくのか、なかなか難しい議論でした。その中で出された答えは、約 100 年入っていないということと同時に、我々地域が不便をかけられているので、今後は、「生活の利便性が図れる場所」「潤いを与える場所」、「地域が誇りを持てるような場所」にして欲しいという意見が出ました。また活用策については、「生活道路」や「海浜公園」など、それから「明治時代から存在する史跡を活かして欲しい」という意見が出ました。どういう方向に決まろうと、当時の史跡が活かされる方法はないか、という地域の意見を踏まえながらこの会議で発言していきたいと思っています。

座 長：市が実施した Web アンケート以外にも地域独自でアンケートを取られてご意見を述べられるということです。たいへん貴重なご意見だと思います。他に質問はありますか。

B 委員：気になるのは有償と無償の範囲です。今、市は財政難なので、費用の検討は重要と思います。第 1 回の資料を参照すると、ほとんどの活用策が無償でできるように見えますが、どうでしょうか。またその中で「工業団地」は有償扱いになりますか。

事務局：第 1 回資料の 4 頁、旧軍港市転換法の抜粋をまとめています。譲与する（無償で受け取る）ことができる範囲として（イ）から（チ）が示されていて、備考欄にあります。が、「（イ）から（チ）として示されるもの以外の用途について、原則、譲渡（有償）で受けることとなる」とありますように有償で受けることになっています。具体的中身になってきますが、ご指摘のとおり、ほとんど無償扱いになると考えております。なお、「工業団地」は有償という扱いになると考えております。

C 委員：仮に、この事業が諸々の整備を進めるような方向になった時、どのような予算の取り方を考えておられますか。

座 長：中身の議論に入ってきていますが、事務局から回答できますか。

事務局：今回の構想検討有識者会議には「意見の集約」をお願いしていて、それを受けて「佐世

保市案」を29年度末までにつくるという目標で進めています。その時点ではあくまで「構想」という段階なので、具体の事業まで落とし込んだところまでは想定しておりません。実際の事業計画となると、具体的に整備を行うためにどのくらいの金額がかかるのか、財源など実施の手立てまで整理します。しかし、構想はあくまでもビジョンを示すものと考えていますので、集客効果くらいは検討があるかもしれませんが、今の段階で財源の提示までは考えていません。

D委員：旧海軍が持っていた図面が資料として出ていますが、活用を議論するため、「現在米軍がどのような維持管理をされているのか」の資料ありますか。また、当時の設計図が示されたけれど、「工事会社」や「どのような材料で、どういったところで作ったのか」などの資料があれば出して欲しい。

事務局：米軍に確認が必要となりますので、時間をください。なお、現地視察の時にも、トンネルは湿度管理のため基本的に24時間空調しているという説明があり、「管理費用はどのくらいか」といった委員の質問に対して、「米軍が管理していて、数値は承知していない。」というやりとりがございました。ご質問の内容が対外的にお伝えできることなのかも確認して、お伝えできることなら当然オープンにしていきます。例えば、一つにつき何千万かかっている、など頭に入れて議論が必要ということであれば、確認して、情報提供ができるものなら、お伝えしたい。しかし、現地視察の時のように情報提供がなされない内容の場合、その数値等がない中での検討となることをご了承頂きたいと思います。

座長：一旦、休憩を取ります。

～休憩～

座長：前半に事務局が説明しましたが、9頁、第1回の会議後に各委員から任意でご意見を提出して頂き、集約しています。また参考として、有識者へのヒアリング内容と、Webアンケート約100名の意見を、区分けしています。検討の方向性として、担うべき役割は「観光振興の視点」「自然との共生の視点」「港の振興の視点」「産業振興の視点」「生活環境づくりの視点」といった5つに分かれるのではないかと、そして活用策としては「歴史・文化・交流ゾーン」「緑の空間創出ゾーン」「産業創出ゾーン」「多目的空間の創出ゾーン」の4つに分かれるのではないかと、ということで、いったん素案として事務局に整理して頂いたところがございます。この方向性で漏れていることはないか、その方向性に沿った活用策が大きく区分されていますが、そこから漏れていることはないでしょうか。そこを委員の皆様と議論していきたいと思います。また第1回の時点でまだ意見がまとまっていない方もいると聞いています。この素案に限りませんので、ご意見を頂戴したいと思います。

E委員：前畑弾薬庫の跡地利用について、特徴を活かしたものを進めるべきという意見があります。私どもは工業関係の「ものづくり」をしていまして、今回の「トンネルが有効活用できないか」といったことを考えています。現在、産業界は微細なものの製作が求められています。また、温度管理が必要でもありまして、クリーンルームにおける製作、いわゆる「ごみの混入」があってはいけないわけです。医療機器、化学薬品など、菌の混入が許されない分野で、温度管理や湿度管理、空気清浄度などの配慮が必要です。トンネルの特徴を活かした産業の誘致ということで、医薬品関係の研究室や、医療機器の開発などでトンネルは使えるのではないかと、思っています。企業を誘致するにあたって、「こんなトンネルがある」ということを宣伝すると、関係者は興味を示すのではないかと感じています。

座長：ものづくりに資するような形での跡地利用の例を出して頂きました。

F委員：商工会議所の議員、青年部30名にアンケートを行いました。結果、「現存する倉庫群をそのまま残して欲しい」が60%、「その他」が40%でした。この60%の人は「観光振興につなげて欲しい」という意見が大半で、「倉庫群を活用しての観光施設、商業施設、娯楽施

設、歴史資料館、公園などを設置して欲しい」という活用策が出ました。「その他」の40%は、「道路整備」「自衛隊の基地」「企業誘致」という意見がありました。商工会議所として一つに意見を集約するものではありませんが、現在の施設・倉庫群を残して観光振興に活かしたいという意見が示されました。また、できるだけ少ない投資で効果があるものを行うことが求められることも指摘されました。キーワードは「佐世保の過去、現在、未来を発信できる施設としたい。」でございます。過去は、佐世保にとって数少ない歴史ある建造物だから残して欲しいということ、現在は、佐世保観光コンベンション協会による SASEBO 軍港クルーズなどでつなぐということ、未来は、20 年後、30 年後の返還に向けてということでございます。過去、現在、未来を同時に発信できるような施設にしたいということでございます。

座 長：商工会議所も独自にアンケートをとったということで、非常に貴重なご意見だと思います。データは、ぜひ事務局と共有して下さい。

G 委員：弾薬庫跡地として固有性があるもの、代替性がないものという視点で考えると、現存している施設を活かすこと、それから約 70 年も手つかずの自然が残っているということが貴重かと思います。インターネットで旧軍施設を調べましたところ、情報は出てきますが、今回視察したようなきれいなもの、中が整備され今も使われているものはなかなかなくて、崩壊してそのまま放置しているものが、私が調べる範囲では多かったように思います。従って、建物が残っていて、観光として活用ができるものであることは独自性があると思いました。観光、環境、歴史、教育、生活などの複合的なエリアを考えることかと思っています。

座 長：歴史ある建物がありますので、そういったものは残して有効活用をして欲しいというご意見だったかと思っています。

H 委員：20 年ほどで動き出すという構想ですが、本当に 20 年先に前畑弾薬庫が移転するのでしょうか。今のところ佐世保市だけが「移転する」と言っているだけで、防衛省から米軍に「移転してくれ」とは絶対に言わないと思います。米軍も「移転したい」とは言わないでしょう。そういった案件は横須賀が決めることで、前畑弾薬庫は決めることはできないでしょうから。検討は大事なことだと思いますが、本当に動くのかという思いがあります。また、移転するにしても、今の物価高では素人試算で 1500 億円以上のお金が必要と思いますが、そのお金を防衛省が確保できるでしょうか。防衛省も米軍も今のままで不自由はないとすれば、20 年先ではなく、50 年先や 100 年先ではないのでしょうか。本当に動くのかという疑問を呈したい。

座 長：大切なご指摘だと思います。その件で私の理解を述べさせて頂くと、期間に関しては何らかの一定の数字を示さないと議論にならないから、このくらいの年数を示したと聞いています。それから、これほど有識者、市民が集まって議論すること、さらに事業化されると関係者は増えるでしょうが、市民がこれだけ参加して意見を出す、話し合っていることが重要なことかと思っています。

H 委員：もちろん必要なことかと思っています。

座 長：たしかに市だけがヒートアップしても、その時々的情勢を踏まえて進めるということだと思います。この会議として成案に近い形でまとめて、それがアメリカにも聞こえる形で意見を出したいと思いますので、皆さんご協力をお願いします。

I 委員：資料 C の 3 頁、図面がありますが、干尽公園まで含めた話になるのでしょうか。

事務局：植生図において、範囲の区分けが明確ではなく恐縮ですが、干尽公園も入っていると理解しています。

I 委員：私どもはこの干尽地区で港湾や輸送をやっています。石炭の荷役などもやっています、

図面では分かりにくいでしょうけれども、前畑弾薬庫と場所的に近い位置でございます。基本的に私どもの地区は準工業地域で、埃も出るような産業でございます。そのあたりも考慮した議論が必要と思っています。

D委員：先ほど20年先ということが出ていましたが、この会議では次の世代へのメッセージとして、段階的に進むものでしょうから、私どもが具体的なことを書くよりも、メッセージとして思いを次につなげていけるような形になればと思います。さて、この資料には「誰がやるのか」といった主語が書かれていません。次の世代へのメッセージとして、「市民が、自らNPOを立ち上げる運営に関わる」「市民が自分達で考えて、維持管理をしていく」などのことを書いていけば、「こういうことを私たちに残してくれた」と次の世代へ私たちの思いが伝わっていくのではないかと、思います。ですから、ハードが先行する計画をよくみめますが、では「誰がやるの」という段階になるとなかなか難しくなることが多いように思います。大まかで良いので、運営をどのようにやるのか、市民参加を義務付けるような流れの中で行政がバックアップするのか、あるいは、民間団体が運営していく、などのソフトの選択肢も盛り込んだら良いかと思っています。

座長：ご指摘のとおりで、私も主語がないことは気になっていました。事業化、事業主体という段階までは、この会議はカバーされないと理解していましたので、メッセージ性だけならこのような作りになるだろうと思いますが、非常に貴重なご意見ですので、今後の資料づくりに活かして欲しいと思います。

C委員：先ほどの「本当に移転が進むのか」というご意見に同感でして、私も軍にたずさわる関係上、何となくそのあたりの事情が分かる気がします。そのような状況ですが、佐世保市が目指すところを明確にして、今後の活動の方向付けを決めた方が良いでしょうと思います。今回の資料に担うべきこと、活用策があらかた出ていると思いますので、あとはそれをどういうふうに活用して、具体的な方法を決めていくことが今後進む道かと思っています。また、市は観光都市を目指しながら活動を進めています。さらに国は、2016年(平成28年)3月にまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」において、「2020年に4000万人の訪日外国人旅行者数を目指す」など示しています。その中で、私は環境省の懇談の中で「ナショナルパーク」という話をききました。これは「豊かな自然が凝縮された日本の国立公園を世界水準の公園にしていく」というもので、「国立公園満喫プロジェクト」の中で、現在日本に8カ所立ち上げられ、九州は阿蘇くじゅう国立公園と霧島錦江湾国立公園がピックアップされ推進されています。佐世保市は九十九島国立公園を有しているので、そういった国の施策に手を挙げてはどうでしょうか。9頁の活用策にも干尽公園と天神公園を結ぶ遊歩道というご意見があります。九十九島を拠点として、前畑などの各ポイントを線で結びながら、佐世保市全体を面で考えるということを構想してはどうでしょうか。予算的なものとして、国の施策にのっとったプロジェクトを立ち上げることで、少しずつ実現化に近づくのではないかと、と思っています。

座長：国の施策、動きに上手く沿うようにやっていってはどうかというご意見です。

J委員：観光という立場からすれば、旧軍港施設は非常に重要な施設なので、できればそのままの形で歴史の重みも持たせながら見学の地としたいという思いがあります。また、佐世保は防衛機能を果たす役割も有する港でもあります。この取り組みを防衛省はどのように考えているのでしょうか。もっと佐世保が機能を発揮できるようなことを考えておられるのでしょうか。あるいは、観光船やクルーズ船が入っていて、日本で7番目の寄港の数で伸びています。一方で、隣の干尽地区は荷捌き場などが狭く、港湾としてうまく機能してないと聞いています。いろいろな形で、できるだけお客様に来て頂きたいが、「干尽地区の港湾機能をどうするか」「現状の問題点をどうするか」といった指摘があるでしょう。いろいろ

な方から意見を採取されているけど、防衛関係者、それから港湾関係者のご意見もさらに必要だろうと思います。

座 長：本日、港湾部も同席しているので、補足等あればお願いします。

港湾部：クルーズ船の寄港はただいまのご説明のと通りの状況で、市では岸壁の延伸を計画中で、大型化に対応した寄航を目指して進めています。荷捌き地の不足についてですが、施設の老朽化ということで一部岸壁が崩落してご迷惑かけているところがありますが、クルーズ船が入ってくる航路にご迷惑をかけるということでやっていますが、荷捌き地の需要バランスは、私ども正確には把握していませんが、ご意見はうかがっている状況です。

座 長：補足説明でした。ありがとうございます。

K委員：見学会で初めて対象地に入りましたが、敷地が細長く、海岸は浅いという地形的な特徴がありました。建設業なものですから、どうしても道路の取り付きを考えてしまい、海の方に付けるのか、山際につけるのか、どうやったら土地が有効に利用できるのかを考えています。今回の構想によって建設の方向性も出ますので、皆様の意見をうかがいながら形にしたいと思っています。

L委員：現場は細長い、自然が豊か、倉庫が今もなお綺麗に使われている、交通の便も駅から約3kmでアクセス面も良い、足を運びやすい、といった特徴から「観光」や「公園」という利用が第一印象です。アンケートもそのような意見が多いようなので、ここにお住いの方の意見を重要視しながらまとめるべきだと思っています。

M委員：針尾への移転を予定されていて、整備条件などいろいろあると思いますけど、この会議で活用策などをまとめて、中央関係部下へ伝えていくことが少しでも促進につながるということは同感です。担うべき役割、活用策、地元の方々の意見を煮詰めていき、将来へのメッセージとして残していければと思っています。

N委員：3点ございます。一点目、9頁の資料の活用策に「防災機能等の整備」ということがございます。昨今、大規模地震などが起こっている中で、防災機能に絡むような役割というものも必要になってくると考えます。二点目、先ほど「本当に移転が進むのか」といったご意見がありました。そもそも跡地利用計画を考えているのは、前畑弾薬庫の移転を促進するという狙いもあったかと思います。佐世保港のより良い活用を考える上で一つの前提となるのが、重要な位置で広い面積を占めているのが前畑弾薬庫で、これがいつの時期に動くかは重要だと思います。私の立場でどうこう言えませんが、移転が前提になるのは間違いなく、こういった跡地利用の検討が促進に資することは間違いないと思っています。佐世保の一市民としては、この会議で跡地利用を真摯に考え、将来どういうふうにしていくかをきちんと考えることが前畑の移転につながると思っています。三点目、財源の話が出まして、非常に重要なテーマと思うのですが、事務局の説明では、今の段階でどれだけかかるなどを示すことまでは考えていない、ということでした。しかし、今までの各委員からの議論を聞いた時に、あまりに予算がかかる、あるいはどこから財源を引っ張ってこなければ実現しないような項目は現実味が低い気がします。とにかく、多く意見が出ていますのは、現状の良さを再発見するということで、一つは約70年手付かずの自然であったり、旧軍施設である弾薬庫だったりするわけで、それをいかに大切にアピールしていくかと考えることかと思っています。

座 長：防災・減災のご指摘です。私は高知や宮崎の港の委員もしていますが、高知では港の地区のかなり広い部分を約16m嵩上げして、防災・減災のシンボルにつかえないかと検討している例もあります。防災は他の機能を阻害しないと思いますので、担うべき役割の中に上手く入らないかご検討下さい。それから、あまりにタイムラグがありますし、空論になってもしょうがありませんし、先ほど主語が無いという話がありましたが、事業主体まで考

えますか。この会議では難しいかもしれませんが貴重な意見ですので、いったんご検討ください。

○委員：何が大切か、何に重点をおくか、という議論ですが、前畑弾薬庫跡地が持つ非代替性の面から考えるべきであろうと考えます。どこにでも整備可能な役割については優先順位が低いと思われます。非代替的なことは、港湾機能を考えることが必要と考えます。佐世保港内においては、提供水域外にのみ整備が可能です。港のすみ分けを考える上では貴重な地域となります。それから文化的価値として、日本遺産、それから手付かずの自然環境ということで、建造物としての希少価値があり、観光資源として高い価値を有するものです。第二に、立地条件の優位性を引出す役割を検討すべきと考えます。人口密集地、都市機能の中枢に近接しますので、適切なアクセスを確保すれば、人・物の移動が容易であると考えます。これらを踏まえて、担うべき役割の優先順位を付するためには、長期的な観点で、佐世保市として現状不足している又は今後不足が見込まれる機能、商港としての機能、臨海部に誘致可能な産業、住宅地、海を活用した防災機能などについて、市のデータや商・産業界及び市民からのニーズを整理されていますが、それを基に意見を集約して、ゾーニングを行い、跡地利用の活用策が出されるものかと思います。

座 長：非代替ということで、佐世保港内は制限水域がかかっていますので、港湾機能を含めた利用が前畑地区以外の場所では見られない視点になるのではないかという意見にも受け止められました。他の委員からございませんか。今日の会議以降は、これを基に議論を発展させていきます。途中から新しい視点を入れるのは難しく、まさに議論の骨組みになりますので、再度見て頂き、意見がないようでしたら、まとめますが、よろしいですか。

～委員から特に意見等なし～

座 長：はい。今回十分に意見を受け、9 頁の方向性で了解が得られたものといたします。それでは、事務局にいったんお返しします。

事務局：本日も貴重なご議論、ありがとうございます。今の話の確認になりますが、大きく 4 つくらいに跡地利用の考え方が分かれています。例えば「緑の空間」は一定の範囲で残すという方向性でよろしかったでしょうか。極端な話を言いますと、全部を工業団地にするとかではなく、一定の範囲でこれら 4 つの空間を残しながらご意見をまとめるという理解でよろしいでしょうか。

座 長：はい。どれか一つにまとめるということではなくて、いろいろな意見を尊重してまとめていくということです。

B 委員：今後も会議が続きますが、どのような方向性なのか。最終的にどのように集約するのか。先ほど 20 年後の次世代につなぐという話も出ましたが、アンケートなどでは具体的なものも出ています。最終的にこの有識者会議は、どのような答申をするのかが分かりません。最終的にどのような方向性で会議を進めるのでしょうか。

事務局：着地点をどこにするかということかと思います。本日の議論を含めた中で、最終的な報告にもらみながら、どういった形が良いのか、事務局で整理しながら、再度ご相談させて欲しいと思います。今の時点では、きちんとしたアウトプットの形はありません。今日の議論で膨らむこともありますし、期間の問題も出ました。本会議においてどのような報告書としてまとめて頂き、それらを参考にしながら市が最終的な構想案としてまとめ、議会と調整するか。アウトプットのイメージを固めていきながら検討したいところですので、少しお時間を頂きたいです。最終的な形がまだありませんので、座長と副座長と相談させて頂きながら、佐世保市としての課題、どういったところが足りないのかの分析が少し必要かとも思っています。第 4 回以降もよろしくお願いします。

2) その他

事務局：(次回の開催日程を説明)

4. 閉会

座 長：閉会いたします。お疲れ様でした。



以 上